

◎会議要録

1 会議の名称	令和6年度第4回砺波市子ども・子育て会議
2 開催の日時	令和7年2月21日（金） 14時00分～15時10分
3 開催の場所	砺波市役所3階 小ホール
4 出席者名	別添会議録のとおり
5 議題	1 協議・報告事項 （1）砺波市こども計画（案）の修正事項について （2）パブリックコメントの実施結果について 2 その他 - 今後の策定作業について
6 公開の明示 及びその理由	公開
7 審議の概要	別添会議録のとおり
8 会議の主管課 及び問い合わせ先	砺波市教育委員会こども課こども支援係 TEL. 0763 - 33 - 1590

◎令和6年度第4回砺波市子ども・子育て会議 会議録

○開催日 令和7年2月21日（金） 14:00～15:10

○会場 砺波市役所3階 小ホール

○委員出席者 石動委員（会長）、大島委員、太田委員、小幡委員、川瀬委員、北村委員、五島委員、近藤委員、花島委員、前田委員、水野委員、山本委員（50音順）
（欠席…五十嵐委員、堅田委員、田守委員、山下委員）

○市側出席者 白江教育長、安地教育委員会事務局長、端谷教育委員会事務局次長・こども課長、幡谷教育総務課長、加藤南部認定こども園長、杉本健康センター所長、岩瀧こども課主幹・こども支援係長、尾山こども家庭センターこども家庭係長、久保こども課こども保育係長

1 開会

2 協議・報告事項

（1）（仮称）砺波市こども計画（案）の修正事項について

事務局： （資料に基づいて説明）

会長： 事務局から計画の修正点について説明がありました。委員の皆様から、何かご質問やご意見はございませんでしょうか。

では、私から発言します。

前回会議での意見を踏まえて修正していただきありがとうございます。42ページのNo.22の事業の修正文案については、もっと広い意味で書ける文章もあるのではないのでしょうか。プレコンセプションケアとして男女ともに健康や性について学びましょうということで、未満児からの性自認なども含めた教育を進めましょうという流れが社会全体としてあるので、そういった内容が分かるような文言を使った方がよいと思います。性感染症など具体的に記載するのはよいですが、それがゆえに限定的になっているように感じます。

委員： 前回の資料もそうですが、今回の計画案も分析が素晴らしいです。59ページには指標が示されていて、中には5年間のうち3年で達成できるものもあるかもしれません。一般会計の予算が示されていますが、できればその中で、こどものことについてどれくらいの予算を使うのかなども含めて示してほしいです。記載されている取組み自体は素晴らしいものばかりですが、どれくらいの予算が必要なのかも知りたいです。

事務局： 予算に関することは市議会の議決後でなければ公表できないため、この場での返答は控えることとさせていただきたいと思います。

委員： 59ページの指標について、目標を数字で表せる項目はあるのでしょうか。

- 事務局： その点については、庁内検討会議で検討したところ、目標とする数値の算定根拠を設定することが困難な部分もあるため、全体的に統一して「増加」又は「減少」で目標を示す方針としたところです。
- 会長： 前回の会議では「指標の設定は難しい」という市の考えでしたが、その後検討いただき、今回設定していただいたということですので、その点については今後に期待ということでお願いしたいと思います。

(2) パブリックコメントの実施結果について

- 事務局： (資料に基づいて説明)
- 会長： 事務局から、計画案のパブリックコメントの実施概要と結果について説明がありました。委員の皆様から、ご質問やご意見はございませんでしょうか。他の計画でもパブリックコメントは少ないものなのでしょうか。
- 事務局： はい。少ない傾向があります。
- 会長： 最後になりますので、この際、全体を通してご意見をお願いします。
- 委員： 2点お願いします。29ページについて修正のご説明をいただきましたが、各事業が掲載されているページ数を入れていただき、目標があり、その目標を達成するために主要施策や個別施策があるということが視覚的にも分かりやすくなったと感じました。ありがとうございます。
- 34ページのNo.10の事業については、先日、福祉センター北部苑の所長や公民館長と話していたところ、砺波北部小学校の数名のこどもたちが学校帰りや夏休みに気軽に北部苑に寄って、図書を読んだり、そこで宿題をしたりしている姿が見られるという話を聞きました。夏休みになると高齢者の方と一緒に活動をしたり、最後はお風呂に入って帰ったりするこどももいるようで、いいなと感じています。放課後児童クラブでも、もちろんそのような受け皿はあります。今日の新聞にイオンに児童館ができるということが書かれていました。砺波型で様々な受け皿ができていくように感じます。油田地区にも麦秋苑という施設がありますが、こどもが利用しているところをあまり見ません。大人も同様なので、何か活用されるようになるとよいと思います。いろいろな関係の方と検討できればと思います。
- 会長： ありがとうございます。他にはいかがでしょうか。
- 委員： 49ページのNo.94の事業は、13ページの婚姻数や離婚数とも関係すると思います。結婚する方は増えていますが、離婚する方もそれ以上に増えています。離婚すると男女どちらも生活の質が落ちたり、困った状況になったりすることもあるかと思います。計画案には「母子・父子自立支援員が弁護士等の関係専門機関を紹介します」と記載されています。しかし、おそらく、困っている人にいきなり弁護士を紹介しても、なお困った状況になるのではないかと思います。
- 事務局： この事業では養育費確保の面について記述しているため弁護士が出てきています。女性の悩み相談も行っているのです、そういった内容も含めて記載できればと考えます。
- 委員： 離婚すると、養育費の話が一番問題になると思います。最初は毎月払

うと約束しても、数年経つと支払いが滞ることが危惧される中で、支払う方の職場などに文書を出したり協力を仰いだり、ある程度対応した後に、最終的に弁護士に依頼する方が、当事者にとってはよいのではないのでしょうか。

事務局： 書きぶりについて検討します。

会長： 委員の皆様、一言ずつお願いします。

委員： 対象が広くなり様々な観点から施策が盛り込まれており、素晴らしいと思います。今後どのように推進していくかが重要かと思います。計画の対象に「子育て支援に関わる関係機関・団体を広く対象とする」との記載がありますので、公的な機関だけでなく、我々のような民間団体ともぜひ連携を深めていただければと思います。我々の活動の中では、公的な制度や事業の対象から漏れてしまう狭間にいる人たち、いわゆるグレーゾーンと言われる人たちがたくさんいます。そういった方をサポートする時には、やはり公的なものだけではなかなか難しい部分もあります。そういった意味でも地域のリソースをしっかりと活用していただく方向で連携を強めていただければと思います。

委員： 計画自体は素晴らしいものになったと思います。保護者会の代表として今回参加させていただきましたが、大多数の親は、この計画自体を知らないのではないかと思います。パブリックコメントも0件だったということで、これでいいのかなと感じています。0件はさみしいので、意見を聞きたいのであれば、PR方法を工夫したり、改めて募集するなどしてもいいのではないかと思います。

会長： 0件はさみしいですね。実行するのと同じくらいに、計画を皆さんに周知するのも大事だと思います。

委員： 学校現場で感じていることをお話したいと、計画を読んでいた感じました。こどもが困っている要因について、昔は友だち関係が多かったのですが、最近は家族関係というのが小学生からも挙げられます。こどもが親を精神的に支えているという家庭も目にします。学校は目の前にいるのがこどもなので、やはりこどもの幸せを第一優先として対応していきます。学校で楽しい経験をさせようと動く、自分を大切にしないような言動をしていたこどもも徐々に前向きになるのですが、家に帰ると親はそのままという状況で、その親を、誰が変えていくんだろうということを最近考えています。だからこそチームが大事で、計画を見ると知らない取組みもあったので、それらを知ることや情報共有をしていくことが大事だと感じました。

委員： 個人的な感想ですが、砺波市子ども・子育て会議に参加し、知らなかった問題などについて知ることができ、勉強になりました。砺波市をよりよくしていくためには、少子化への対策を講じていく必要があると思いました。「富山といえばお寿司」といったように「砺波市といえば○○」という全国にアピールできるものがあれば、観光客が増えて、移住者も増えて、人口も増えて、こどもの数も徐々に増えていくのではないかと思います。娘が大学受験を控えていて、富山県が大好きなので、県内に残りたいと考えていますが、周りには県外の大学へ進学したいという生徒も多いようです。将来Uターンしたいと思えるようにできれば

と思います。

会長： 県が若者に意見聴取した調査の結果が出ているのですが、富山県に戻りたくない理由として、アンコンシャスバイアスなど文化的な部分が挙げられていて、そういった部分も見つめながら、まちづくりをしていくことも重要ではないかと思っております。

委員： 若者に働いてもらえるようにするということが必要だと思いますので、私も頑張っていきます。

パブリックコメントについて意見がないというのはよく聞く話ですが、市民は関心がないということですので問題だと思います。この計画に限らずパブリックコメントについては考えられた方がよいと思います。また、社会保障・人口問題研究所の資料を見ると人口減少が早まっていると読み取れます。どうしてそのような事態になったのか、どう努力し、施策を打っていくのかは、しっかり考える必要があると思いました。人がいないと始まらない話だと思います。

計画自体はよいと思いますが、見れば見るほど行政は大変だと思います。先生の仕事もそうですが、スクラップ&ビルドがなかなかできない仕事だという面はあると思いますが、多少スクラップしないと、疲弊してしまうのではないかと思います。うまく連携しながら、疲弊しないように計画を進めていただければと思います。

会長： 人口減少については、よい案があればいいですが、多少はやむを得ないとして、現在持っているリソースをどう活用していくかというところは、考えるべきだと思います。施策については、どれだけ効果があるかという見方をしっかりしながら、スクラップ&ビルドができればと思います。

委員： 私は、新潟出身で2000年から富山に来ました。周りの方に恵まれ、よいところだなと思いながら20年間暮らしてきました。私のこどもは、小中学校で近藤先生のお世話になりました。砺波市の人は優しさがあふれていて、人間味があふれています。人にフォーカスしている市、という印象を今も持ち続けています。

（「砺波市こども計画」の）概要版は、大変よいものができていると思いますので、砺波市だけに置くのではなく、広く周知してアピールしていけるとよいと思います。スクラップ&ビルドも必要かと思うので、連合富山として協力できることがあれば、取り組んでいければと思います。

委員： 今回、概要版を拝見して、素敵なのができたと感じました。冊子を見るより分かりやすいと思いました。

パブリックコメントの実施方法として、データをホームページに掲載したとのことでしたが、親たちは、市のホームページを日常的には見ていません。なので、ホームページに掲載するだけでは見ないと思います。ホームページで見かけたとしても、ページ数の多い冊子を見る余裕は、なかなかありません。意見を待つのではなく、保育園などに概要版を置いて、取りに行くことが大事だと考えます。

52ページのNo.106の事業は、よい事業だと感じています。近年SNSの低年齢化が進んでおり、両親がこどもに教えていないのに、祖父母よ

りも2歳のこどもの方がスマートフォンを使い慣れています。外食する時も、スマートフォンを見させておけば、こどもは静かにしているので、使わせている親がすごく増えています。危険性について深く考えずにスマートフォンを与えている親もいると思うので、こどもと同時に親世代への教育ということも大切だと感じます。

Uターンを増やすためには、親世代が、砺波市で楽しく子育てしていたという印象をこどもに持ってもらう必要があると思います。この計画を遂行していただくことで、砺波市は子育てがしやすいと、こどもに話すことができると思います。こどもも、外に出てはじめて砺波市のよさに気づくことができると思います。

会長： 親が楽しそうに子育てしていることも大切です、自分が大切に育てられたという体験も大切だと思います。

委員： 人口が増えなければ、将来的に豊かな生活ができないと思います。どうしたら人口が増えるのでしょうか。いろいろ方法はあるかと思いますが、大企業の誘致も一つであると思います。砺波市の高校生は高岡市に行く場合が多い。最近のこどもはファッションなど楽しいことを好む傾向にあると感じています。砺波市には、どういう魅力があるのか。継続して対策を講じなければ、人は来ないと思います。よい計画にはなっていますが、思いだけでは何ともならないと思います。具体的なことがもっとあればよいと思います。

会長： 具体的な取組みがあることで、進んでいくのかもしれませんが、「輝くこども」となると、いろいろな分野が関わってきますので、それぞれ市そのものが強くないといけませんが、それに対する皆様の熱い思いが、この場での意見の中にたくさんあったのではないかと思います。

それでは、ご意見が出尽くしたようですので、「砺波市こども計画」(案)については、「仮称」を取り、正式にこの内容で了承することで決定したいと思います。

なお、細かな表現などの修正につきましては、会長に一任ということにさせていただきますともよろしいでしょうか。

(異議なしの声あり)

それでは、本日予定しておりました案件については、協議等が終了いたしました。本日も貴重なご意見をいただき、ありがとうございます。

3 その他

事務局： 委員の皆様には、貴重なご意見をいただき、ありがとうございます。この会議の主な目的でありました「砺波市こども計画」(案)は、本日、概ねご了承をいただいたものと考えております。

ご指摘いただいた点については、事務局で検討し、修正が必要な場合は、会長にご相談いたします。そのうえで、3月上旬までには計画を確定させたいと考えておりますが、よろしいでしょうか。

(異議なしの声あり)

なお、この「子ども・子育て会議」につきましては、冒頭に申し上げ

ておりましたとおり、今回を今年度の最終回としたいと考えております。委員の皆様方の任期につきましては、来年度までの2年間となっております。次回の会議は、令和7年度に入りまして1回ないし2回の開催を予定しております。開催時期につきましては、改めてご案内しますので、よろしくお願いいたします。

4 閉会

教育長： 4回にわたり、それぞれのお立場や経験に基づいてご意見をいただき、ありがとうございます。基本理念の実現に向けて、保護者、家族、地域だけでなく、それを支える行政、地域住民が一体となって連携できるよう、具体的な取組みを進めてまいります。具体的には、商業施設におけるこどもの居場所づくりの取組みがいよいよ来年度中には実現する予定です。そういったことは、メディアの皆さんにもご協力いただいて、どんどん情報発信していければと考えております。

優しいまち・温かいまちというご発言もいただきました。まさにそのようなイメージが大切だと思います。イメージがよくなれば人口も増えるのではないのでしょうか。そして、イメージを伝えるのは市民の皆様であり、皆で広めていければと思います。幸い、砺波市は住宅やアパートも増えており、比較的元気なまちであります。高校については、砺波高校は昔、勉強だけのイメージでしたが、最近は先生も一生懸命取り組まれており、市も連携して探求学習を行うなど、昔とずいぶん変わったことを肌で感じています。これについても情報発信していく必要があると思います。

一方、先日、某テレビ局が砺波市に来て、雪かきをしている様子をインタビューし、雪で大変だと、ステレオタイプの発信をしていました。そうすると大変なまちというイメージになってしまいますが、雪が降るからこそスキー場があったり、こどもが雪遊びできたり、よい部分もあるかと思います。よい部分の情報発信を、皆さんも含めて進めていければと考えておりますので、よろしくお願いいたします。